

西臼杵地域における精神障がい者
地域移行支援への取り組み
～ 当事者・支援者の心の変化とネットワークづくり～

高千穂保健所 工藤 裕子

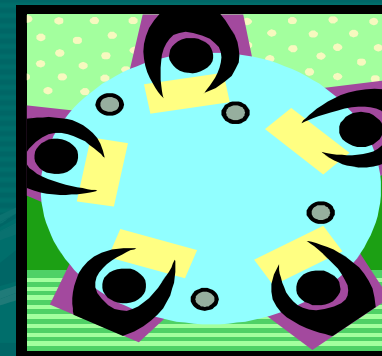
はじめに （事業開始前）

- 関係機関（医療機関、支庁福祉課、保健所）が、個々のケースの業務に追われ、地域全体の取り組みになっていない。
- 各関係機関は連携をとりたいとの気持ちがある。
- 自立支援法について院内関係者が理解していない。
- 退院可能な長期入院患者が、在宅療養をあきらめている。入院患者・支える家族が高齢化。

活動において考慮した点

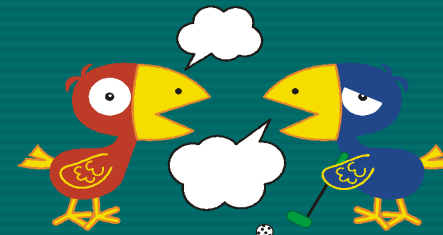
- 他機関スタッフの参加

医療機関
支庁福祉課
保健所



- 院内施設の利用

病棟スタッフの参加



20年度の活動内容

- **高千穂保健所**: **会議と研修**

退院促進支援会議・ピアサポーター派遣事業(交流会)・ヘルパーレベルアップ研修会

- **医療機関**: **院内調整会議とケース検討**

院内退院促進連絡調整会議・社会復帰課連絡会議・ケース検討会(10ケース検討うち9例退院)

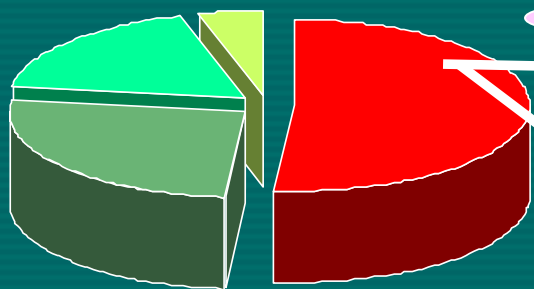
- **支庁福祉課**: **ケース検討**

個々のケースについてマニュアルを活用し、関係機関と協議後、支援(対象28名中5名退院)

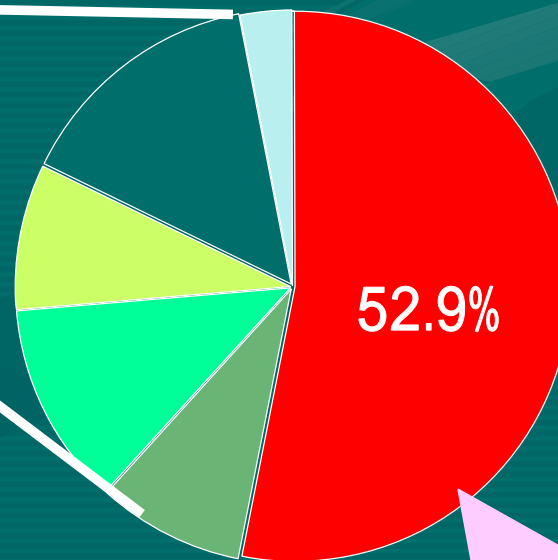
当事者の心の変化

退院したい

18年度の意向調査



- 退院を希望
- 退院したくない
- どちらとも言えない
- 無回答



行動に移していない

事業の経過と共に

院内の生活の中で

退院者が出る
交流会に参加する



SST(生活技能訓練)・
作業療法等のプログラム
への参加する回数増

院内の会話から



「退院」
「食事作り」
「コミュニケーションの取り方」の発言有り

当事者自身
が考え、行動
や言葉に出す

ピアサポーター派遣事業（交流会） のアンケート結果から

1回目：「楽しかった」「良かった」のみ

3回目：「退院してもサポートしてくれる人がいる」「作業所や
デイケアなど地域で行く場所があることを知った」

具体的な地域での
生活設計・生活リズム

地域で暮らす当事者

自分の経験が
他者の参考になる。

将来や就労への意欲

自己肯定感

ピアサポーター派遣事業（交流会） のアンケート結果から

支援者（病棟看護師・訪問看護師など）の心の変化

多数の
訪問看護
が参

「地域の社会
資源・関係者」
「制度や法の
内容」を知る



当事者に制度や資源を
紹介できる。
地域での生活イメージ
が得られた。

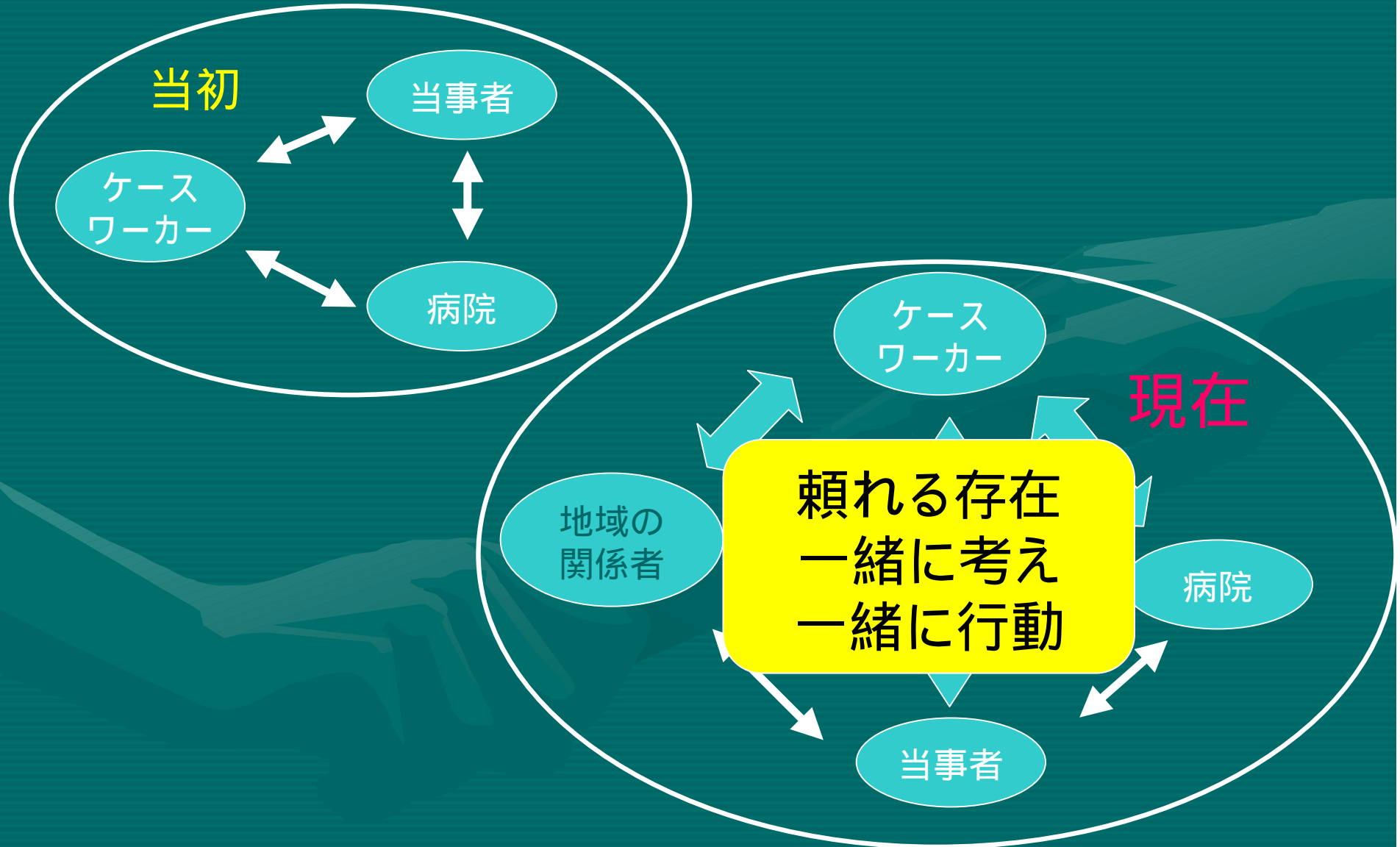
支
援
時

お世話をする



「待つ姿勢」「彼らの思い」
主体が当事者になっている

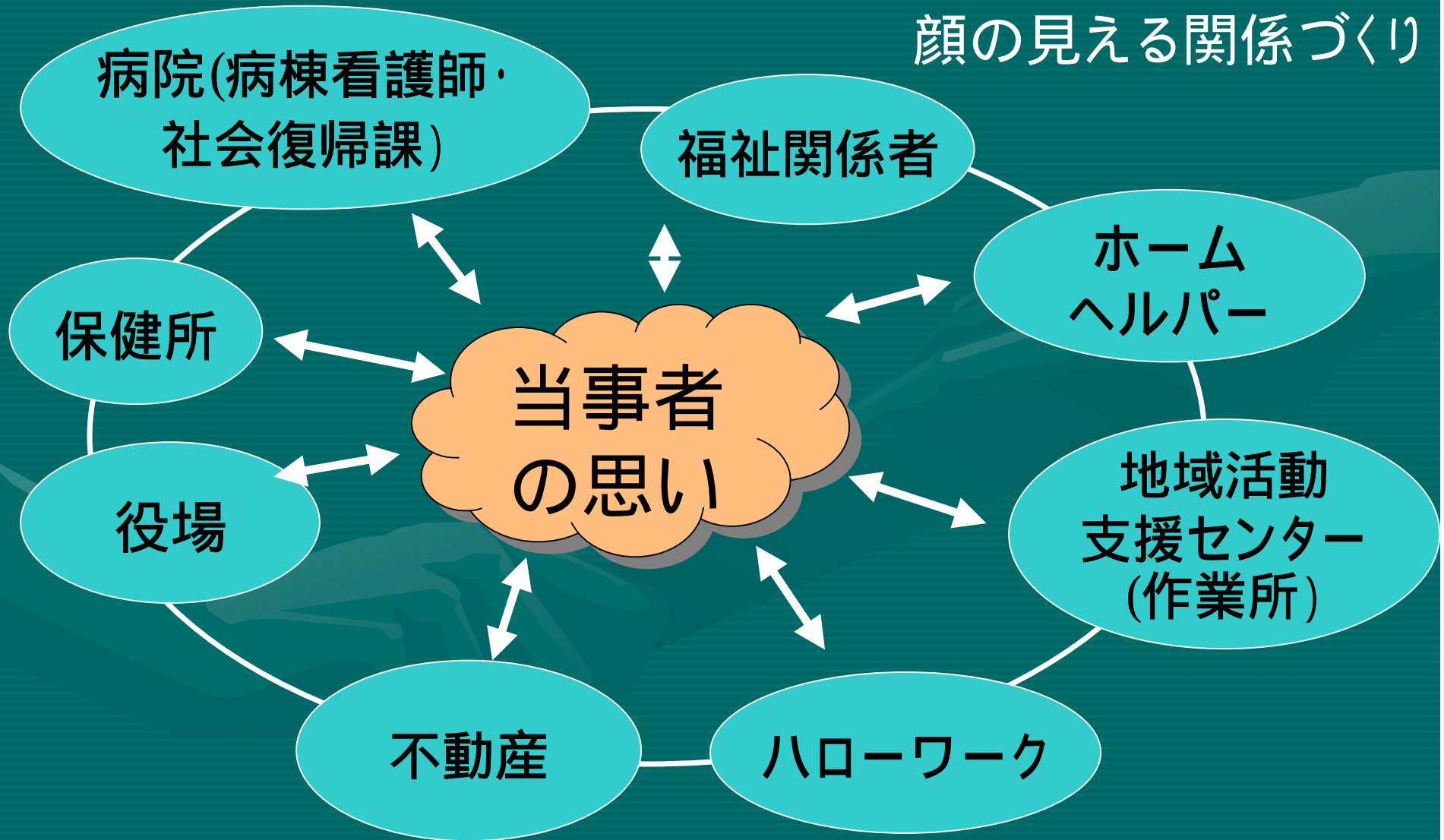
支庁福祉課ケースワーカーの心の変化



今後の取り組み



顔の見える関係づくり



必要な四つの力

院内から押し出す力

外の社会の風を入れる
窓から外を眺めて
一步を踏み出すように
情報提供と声かけ

三つの力を統合調整する力

院外からひっぱりだす力

外から迎え入れる、
迎えに行く
仲間の生活風景

地域で安定させる力

見守りと関心の継続支援
いつでも安心して
利用できる医療機関の存在

終わりに

- ・長く入院しても、退院して地域で生活できる
- ・専門家の少ない地域で
参加型の柔軟で進化するネットワーク

